

# 地域活性化に関連する施策について

平成22年5月  
農林水産省

# 山村再生総合対策事業

## 山村再生プロジェクト

### 多様な主体を支援

- ・ NPO、任意団体
- ・ 森林組合等の各団体
- ・ 企業・第三セクター
- ・ 地方公共団体等

### PDCAサイクルにより新たな事業展開

- ① 森林・地域資源を活用した新たな商品化・事業化
- ② 森林・山村体験活動等の事業化
- ③ ①及び②を組み合わせた複合的な取組

### 例 このを活用した取組

活動支援に加え、現地研修や外部人材を活用した技術支援等により、きめ細やかに対応

## Plan

### 活性化のプランづくり



〇〇集落では  
きのこが豊富  
(山村資源の発掘)



アドバイザーの支援を受け、  
きのこクラフトイベント計画  
(プラン)を作成  
(ニーズの調査、実施箇所の選定)

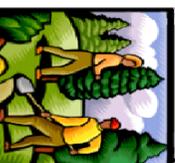
## Do

### 起業化の試行

プラン実施箇所の整備  
(看板設置や林内整備)



イベントの作成



参加者の募集

事業運営の試行

## Check

### 取組の評価と確認



参加者によるモニター調査



専門家による評価・分析  
さらにはプランの改善

更なる事業展開に向けて

Act

### 既存の施設整備事業等の活用

- ・ 農水省の各種交付金等を活用
- ・ 地域再生計画との連携、他省庁の施設整備事業等の活用、既存ストックの活用

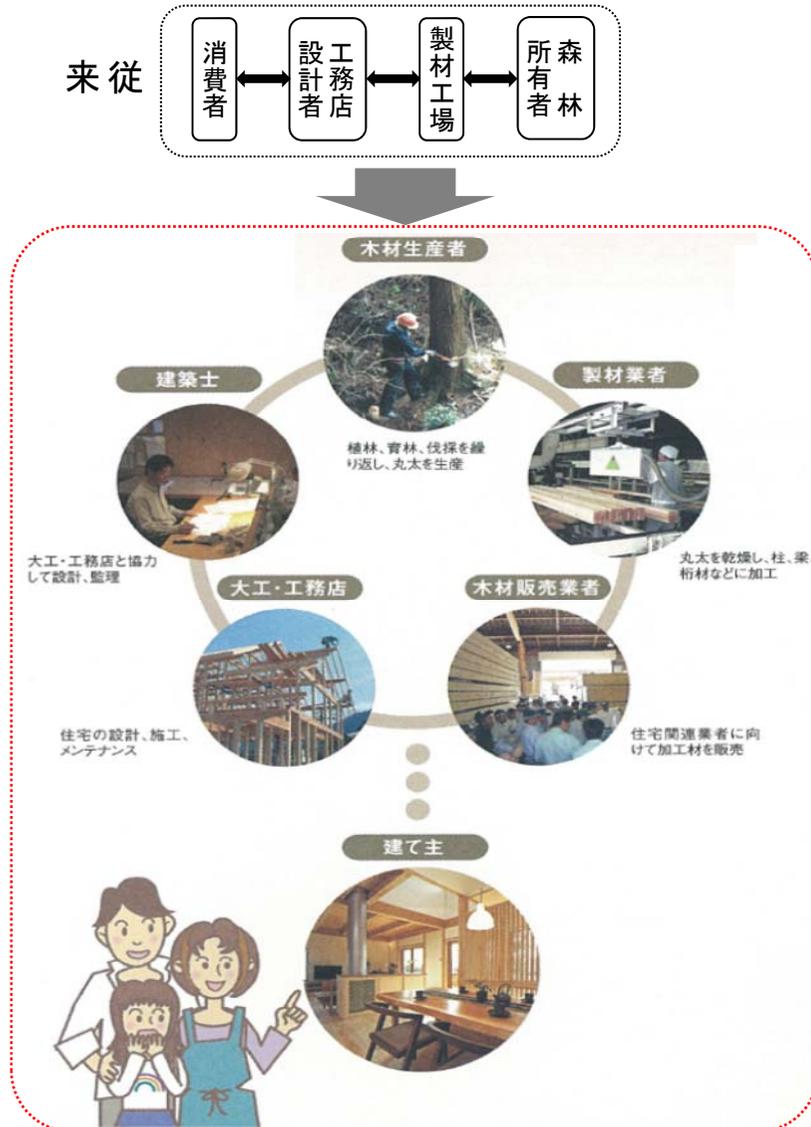
## 山村再生

- ・ 雇用機会の増大
- ・ 都市との共生・対流
- ・ 定住条件の整備

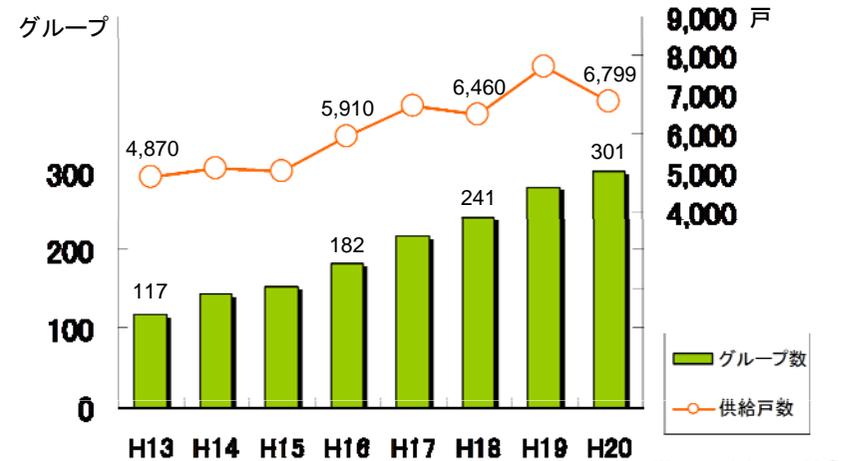
# 顔の見える木材での家づくり

○ 森林所有者、製材工場、工務店など川上と川下の関係者が一体となり、地域材を活用して、消費者の納得する家づくりに取り組む「顔の見える木材での家づくり」を推進しています。

## ■ 関係者連携のイメージ



## ■ 供給戸数及びグループ数の推移



資料：林野庁業務資料

※供給戸数は前年実績

森林組合、製材工場、工務店、建具小売業、建築材料卸売業などからなる八溝杉の家づくり協同組合(栃木県那須烏山市)では、地元で生産された良質なスギ材を天然乾燥し、こだわりのある施主に対応した質の良い和風木造建築を平成17年には15戸供給している。



# (1) 教育の場としての活用と新たな交流需要の創造

(教育の場としての農村の活用)

- 平成20年度から実施している「子ども農山漁村交流プロジェクト」は、農村への経済効果のほか、子どもの生きる力を育むなど教育的な効果を得られていることを踏まえ、引き続き推進。
- 具体的には、受入体制の整備や文部科学省、総務省との連携強化に加え、受入地域を発掘するための新たな取組を推進。  
(新たな交流需要の創造)
- 訪日外国人や、観光・行楽部門の余暇消費の多い高齢者など、農村への旅行者として十分に開拓されていないターゲットに対し、戦略的かつ積極的にアプローチし、新たな交流需要を創出することが必要。
- 多様な主体の連携による共生・対流の推進に加え、新たに観光関係者と農村地域が連携した取組を支援。

## 教育の場としての農村の活用

### 子ども農山漁村交流プロジェクトの一層の推進

- 平成20年度に受入モデル地域に選定した地域を対象にアンケートを実施した結果、以下の各効果が見られた。
  - ・経済効果
  - ・生きがい等の再生効果
  - ・教育的効果
- このような実績を踏まえ、各地域のモデルとなる受入地域の育成を図るため、ワークショップや研修等を通じ、安全確保及び緊急対応等に係る機能を備えた受入モデル地域の整備等を推進。
- 受入地域を発掘するため、本プロジェクトの受入れに関心を有する地域を対象とした基礎的な研修等を実施。
- 総務省、文部科学省及び農林水産省の3省がより一層連携し、合同の説明会、推進キャラバン等を実施。



全国の農山漁村で受入地域を整備し、長期宿泊体験活動を行う小学校の児童生徒数の増加を図る。

## 新たな交流需要の創造

### 多様な主体の連携による共生・対流の推進

- 都市と農村が有する特徴を活かし、相互に魅力を楽しむことができるような関係を構築するため、以下の取組を通じ、都市と農村を行き交う新たなライフスタイルを普及啓発。
  - ・共生・対流に関する地域のモデル的な取組の顕彰
  - ・各種メディアを活用した情報発信

### 観光関係者と農村地域が連携した新たな都市農村交流の推進

- 観光関係者と農村地域の連携によるグリーン・ツーリズムの推進に向けたプラットフォームの構築。
  - 観光関係団体とグリーン・ツーリズム実践団体が連携推進のための意見交換等を行う場の設置等
- 観光圏を中心とした地域における観光関係者と農村地域が連携して取り組む実践的取組を支援。
  - 受入体制の整備や体験コンテンツの開発等
- 国際グリーン・ツーリズムの推進に向け、訪日外国人旅行者の受入体制の整備に対し支援。
  - 地域における外国語によるパンフレットや体験コンテンツの開発等

これらの取組を通じてグリーン・ツーリズム施設宿泊人数の更なる増加を図る。(平成20年度実績値は約844万人。)

## (2) 人材の確保・育成と都市と農村の協働

2. 都市と農村の交流等②

(人材の確保・育成)

- 農村が人材不足といった構造的な問題を抱える一方で、都市部においては農村に関心を持つ者が多く存在することに着目し、農村の活性化を担うリーダーとなり得る人材を育成する仕組みを構築するため、都市と農村地域をつなぎ、農村地域において都市部人材等を活用する取組を推進。

(都市と農村の協働による地域資源の活用)

- 都市部のNPO、企業、大学等多様な主体との協働により、新たな視点、手法で農村の地域資源の発掘・活用を推進。

### 人材の確保・育成

#### 人材を安定的に確保・育成するための仕組みの構築

都市と農村をつなぐ能力をもった仲介機関による以下の取組を支援。

- 農村地域における活性化活動への参加を希望する都市部等の人材を研修生として農村地域へ派遣し、実践研修を行う取組
- この実践研修の成果を高めるためのノウハウを有した指導員の派遣(ワークショップや活動成果発表会等を行うことによる、事業実施効果の向上、波及)
- 課題を有する農村地域に専門的知見を有するアドバイザーを派遣し、講演、実技指導を直接行う取組

※人材育成のための取組事例

「九州ムラたび」がコーディネート機関として、都市部の人材を研修生として長崎県雲仙市に派遣し、研修生は地元名産のこぶ高菜の収穫加工等に従事。



都市部の人材を活用し、農村地域の活性化を担う仕組みの確立。

### 都市と農村の協働による地域資源の活用

#### 多様な主体との協働の在り方として先駆的な事例を全国に発信

- 農村でこれまで見過ごされていた地域資源を魅力的なものとして改めて発掘、活用することで都市と農村の交流等を促進していくことが必要。
- また、こうした取組を進める上で、外部の視点や専門的知見を有する企業、NPO、大学等の都市部の様々な主体と連携して行うことが有効。

こうした地域資源の活用や都市と農村の協働のあり方は、地域の状況に応じて様々であるが...

- 全国の農村に共通する課題として、先駆的な取組事例の収集や、情報交換等のためのネットワークの形成を推進することにより、各地域における自発的な取組を後押し。



<地域の取組事例>

栃木県茂木町竹原地区では有志で「竹原郷づくり協議会」を設立し、NPOと連携して地域資源の竹林を活用した地域観光スポットの掘り起こしやイベントの開催などに取り組んでいる。

全国の農山漁村において、自発的で意欲ある地域活性化のための取組を更に拡大。

# オーライ！ニッポン会議

## ○オーライ！ニッポン会議

- ・正式名称： 都市と農山漁村の共生・対流推進会議
- ・代表者： 養老孟司 東京大学名誉教授
- ・設立目的： 都市と農山漁村の共生・対流の取組を国民的な運動として展開すること
- ・設立経緯： 平成15年6月、民間企業、NPO等からなる民間主体の組織として設立
- ・活動内容： ホームページによる情報提供、オーライ！ニッポン大賞の表彰、シンポジウムの開催等
- ・事務局： 財団法人 都市農山漁村交流活性化機構  
役員数54、うち農林水産省OB4人(常勤1人)  
職員数29、うち農林水産省OB5人

※都市と農山漁村の共生・対流HP <http://www.ohrai.jp/>

## ○ オーライ！ニッポン

都市と農山漁村のオーライ（往来）の活発化により日本が健全（all right）になることを表現したもの

- 日本全国で、もっと交流を深めよう
  - 都市と農山漁村の往来によって、日本を健康にしよう
  - 日本を見つめて、農山漁村をもっと知ろう
- という意味が込められている。

## オーライ！ニッポン会議

代表：養老孟司 副代表：安田喜憲、平野啓子  
運営委員長：金子家治

運営委員会

専門委員会

NPO

企業

地方公共団体

個人

会員数：564

その他団体

(平成21年6月末時点)

## 活動状況

- キャンペーンイベントの共催・後援 平成21年3月末現在 300件
- ホームページによる情報提供 平成21年8月末現在  
2,512,856アクセス（07年10月～累計）
- 「ようこそ！農村へ」キャンペーン  
・グリーン・ツーリズム商品の普及啓発
- オーライ！ニッポン地方シンポジウム(第7回)  
・H21.11.18 於 和歌山市
- オーライ！ニッポン大賞  
・H22.3.1 第7回オーライ！ニッポン大賞審査委員会
- オーライ！ニッポン全国大会  
・H22.3.10 第7回オーライ！ニッポン全国大会

都市と農山漁村の共生・対流推進会議の役員

平成21年 8月現在  
(順不同・敬称略)

代表	養老 孟司	(東京大学名誉教授)	西松 達	(定期航空協会会長)
副代表	安田 喜憲	(国際日本文化研究センター教授)	上條 清文	((社) 日本民営鉄道協会会長)
	平野 啓子	(総務部、キャスター、大阪芸術大学放送学科教授)	堀内光一郎	((社) 日本バス協会会長)
顧問	御手洗富士夫	((社) 日本経済団体連合会会長)	村木 文郎	((社) 日本旅客船協会会長)
	岡村 正	(日本商工会議所会頭)	大塚 陸毅	(東日本旅客鉄道(株) 取締役会長)
	石澤 義文	(全国商工会連合会会長)	豊島 達	((財) 日本海事広報協会理事長)
	麻生 渡	(全国知事会会長)	橋川 隆	((社) 日本マリーナ・ビーチ協会理事長)
	森 民夫	(全国市長会会長)	石原 邦夫	(東京海上日動火災保険(株) 取締役会長)
	山本 文男	(全国町村会会長)	石塚 邦雄	((株) 三越 代表取締役社長)
	山岸 秀雄	(NPO サポートセンター理事長)	甲斐 良治	((社) 農山漁村文化協会 増刊現代農業編集主幹)
	小山内美江子	(NPO 事業サポートセンター代表理事)	佐藤 彰孝	(ふるさと情報館代表)
	石塚 克彦	(劇団ふるさとときやらばん 脚本・演出家)	佐藤 信弘	(元(株) 宝島社 田舎暮らしの本編集長)
	今井 透子	(医師、登山家、(社) 日本山岳ガイド協会専務理事)	井上 和衛	(全国グリーンツーリズム協議会会長)
	佐々木 義	(社国土緑化推進機構理事長)	辻井 達一	((財) 日本グラウンドワーク協会理事長)
	今村奈良臣	(東京大学名誉教授)	中村 桂子	((社) 農村環境整備センター理事長)
	江上 栄子	(江上料理学院院長)	堀内 廣男	(Jp. 都市農村交流推進協議会会長)
	倉本 聡	(シナリオ作家)	内山 節	(NPO 法人 森づくりフォーラム代表理事)
	祖田 修	(福井県立大学学長)	岡島 成行	(NPO 法人 自然体験活動推進協議会副会長)
	立松 和平	(作家、NPO 法人ふるさと回帰支援センター理事長)	高橋 公	(NPO 法人 ふるさと回帰支援センター常務理事・事務局長)
	田部井淳子	(登山家)	田中 栄治	(NPO 法人 地域交流センター代表理事)
	玉ノ井友宣	(日本相撲協会 玉ノ井親方)	広瀬 敏通	(NPO 法人 ホールアース研究所代表理事)
	中村 桂子	(J T生命誌研究館館長)	横兵 康雄	(NPO 法人 海辺つくり研究会理事長)
	中村 靖彦	(農政ジャーナリスト)	竹田 光雄	(北海道由仁町長)
	浜 美枝	(女優、農政ジャーナリスト)	牧野 光朝	(長野県飯田市長)
	古谷 典彦	(全国地方新聞社連合会会長)	谷口 尚	(岐阜県白川村長)
運営委員長	金子 家治	(元トップツアー係長)	河内 紘一	(愛媛県内子町長)
運営委員	黒川 和美	(法政大学経済学部教授)	宮崎 暢俊	(熊本県小国町長)
	島村 葉津	(ノンフィクション作家、ニッポン東京スローフード協会)	白鳥 省吾	((社) 全国子ども会連合会会長)
	高木 勇樹	(元農林漁業金融公庫総裁)	加倉井 弘	(農政ジャーナリスト、元NHK解説委員、経済評論家)
	沼田 早苗	(写真家)	北村 龍行	(毎日新聞社 元読者委員)
	元石 一雄	((財) 日本生産性本部常務顧問)	佐藤三千男	(読売新聞社 中部支社支社長)
	金井 耿	((社) 日本旅行業協会会長)	村田 泰夫	(農林漁業金融公庫理事、元朝日新聞社経済部編集委員)
	木村 茂男	((社) 全国旅行業協会会長代行兼副会長)	矢野 学	(観光カリスマ、元新潟県安塚町長)
	速藤 芳雄	((社) 全国農協観光協会会長理事)	小田島峰雄	(元岩手県東和町長)
	佐々木 隆	((株) ジェイティービー代表取締役会長)	土屋 正忠	(元武蔵野市長)
	太田 孝	(近畿日本ツーリスト(株) 代表取締役社長)	森位 正巳	(元兵庫県八千代町長)
			野村 一正	(農林中金総合研究所顧問、元時事通信社解説委員)

## 農山漁村活力再生・支援事業(継続)

○ 地域の個性・多様性を重視し、農山漁村の活力再生に向けた取組を支援することにより、農村から新たな活力を創出。

### 農村の課題

#### 【集落機能の低下】

- ・過疎化、高齢化の進行
- ・耕作放棄地の増大
- ・獣害の発生
- ・伝統的祭事の衰退
- ・景観の荒廃

#### 【農村経済の活力低下】

- ・農産物価格の低迷
- ・農村での雇用が減少
- ・人材不足
- ・低密度な産業集積
- ・経済主体の連携欠如

### 都市での動き

#### 【農への関心増大】

- ・2007年から都市部を中心に団塊の世代がリタイア
- ・田舎暮らしや農ある暮らしに高い関心

農家だけでなく、都市からの定住者等も含めた地域コミュニティを基軸とし、  
多様な手法を通じて地域の課題、問題を解決

### 定住や長期滞在の促進

- ・空き家バンク、定住アドバイザー
- ・体験・交流活動、農村ライフセミナー
- ・受入れ側農村の人材育成
- ・定住後の活動への体制支援
- ・起業を促進する体制整備 等

### 地域産業との連携推進

- ・農村と企業の連携体制の整備
- ・異業種連携の推進
- ・人材バンクの設置・運営

## 農山漁村の活力再生に向けた活動

NPO、農業者の組織する  
団体等民間団体の活動に  
直接支援

### 多様な主体による協働活動

- ・地域共同活動の取組体制整備
- ・特産物等の開発・販売等の調査 等

地域の特色を活かした取組により、集落機能を維持・再生、農村経済の活性化

# 田舎で働き隊!

(農村活性化人材育成派遣支援モデル事業)

## 農村地域活性化を担う人材の確保・育成支援システムの構築

農村地域の活性化を担う人材の確保・育成を安定的に支える仕組みの構築に向け、農村地域が抱える課題の分析、活性化活動への従事を希望する都市部の人材の募集、農村地域と人材のマッチング、農村地域への人材派遣研修事業などに取り組むコーディネート機関を支援。

